

toolbox 織物壁紙 施工説明書

織物壁紙は天然の綿や麻を主材料としており、季節・気温・湿度に非常に敏感な壁紙です。
ビニールクロスとは施工手順が異なりますので、施工説明書に基づき施工をお願いいたします。

施工前のご確認

- ・有効巾：920mm
- ・スリッターを通してからお使いください。（耳付きの状態では約950mm）
- ・貼り付けは「**突き付け貼り**」を原則とします。
- ・ビニールクロスと比べるとジョイントが目立つ商品となります。また、天然の織り模様のためジョイント部分での左右違いが発生する場合があります。
- ・ロットにより多少の色が異なる場合があります。
- ・難燃処理をしていませんので、防火制限のある場所には使用できません。
- ・糊は強力なでんぷん系糊を使用ください。希釈不要の**ウォールボンド**（壁紙用でん粉系接着剤）がおすすめです。

手順1：下地処理

- ・織物壁紙は水分を通しやすいので、下地処理を充分に行ってください。
- ・下地が合板の場合、必ずシーラー処理を行ってください。部分的な合板下地の場合も必ず行ってください。
- ・湿式工法のコンクリート面・モルタル面も必ずシーラー処理を行ってください。下地のアクを壁紙が吸い上げ、変色やカビの原因になります。
- ・パテ処理の際、ビス類は必ず錆止めを行ってください。
- ・下地の不陸を拾いやすいため、入念な下地処理を行ってから貼ってください。

手順2：糊の配合と塗布量

- ・ウォールボンドの場合はそのまま使用し、希釈タイプのでんぷん糊を使用の場合は濃いめに溶いてください。目安は「糊10：水7」の割合です。
- ・糊をつけ過ぎるとジョイント部分でローラーを使用した際に糊が出ますが、ビニールクロスのように綺麗に拭き取れません。
表面に糊を出さないように注意し、糊がでた場合は綺麗なタオルで丁寧に拭き取ってください。

手順3：糊つけ・オープンタイム

- ・ **オープンタイムなし**。糊付け後10分以上放置しないでください。
- ・ 織物壁紙は浸透性があり、糊の乾燥も速いので、アイハギが発生する可能性があります。**糊のつけ置きは絶対にしないでください**。

手順4：貼りつけ

- ・ 「**突き付け貼り**」が原則です。重ね切りでは下地までカットしてしまい、**目隙（目開き）の原因になります**。
- ・ スリッターを通してからお使いください。
- ・ 石膏ボード下地で重ね切りを行う場合は、**下敷きテープを使用し、石膏ボードの表層紙まで切らないよう注意してください**。
- ・ 重ね切りをした場合、強引にローラーをかけても不陸がとれません。上部側の壁紙を指でずらしながらローラーをかけるとうまく仕上がります。
- ・ 張替工事に際しては、ジョイント部分には必ずジョイント補強テープを使用してください。

【施工のポイント】

- ・ カッターの刃はこまめに替えるようにしてください。
- ・ 表面を強くこすると織物がほつれたり光沢が変わり、ジョイント部分が目立ちやすくなります。なでつけローラーかけは丁寧に行ってください。
- ・ 糊付け後、**10分**を目安に施工してください。

【注意】

- ・ 脚立の脚が壁に当たらないように注意してください。
- ・ 織物壁紙が汚れると拭き取っても汚れは綺麗に落ちませんので、壁紙の表面に水や糊をつけないよう充分にご注意ください。
- ・ 廻り縁が無い壁面を貼る場合は、壁紙のカット面に必ずクロスカットテープを貼り、天井面に糊をつけないように注意してください。
- ・ 出隅、入り隅は廻し貼りをしてください。
- ・ コークボンドは使えません。

施工時・施工後の乾燥について

- ・ 壁紙を貼り終えた後の急激な乾燥は避けてください。目隙（目開き）の原因になります。
- ・ 夏場の施工時には窓を開閉せず、施工後も窓を閉めて急激な乾燥を避けてください。